

(別記様式)

会 議 の 概 要

会議の名称	令和2年度第3回木津川市環境審議会	
開催日時	令和3年2月3日(水) 10時00分～12時00分	
開催場所	木津川市役所 5階 全員協議会室	
出席者 出席：■ 欠席：□	委員 (名簿順)	■橋本委員(会長) ■尾崎委員(副会長) ■大西委員 ■北委員 ■木原委員 ■立花委員 □渡部委員 ■内村委員 ■江見委員
	オブザーバー	■遠藤オブザーバー ■森岡オブザーバー(岡田代理)
	事務局	市民部：山本部長、藤岡次長 まち美化推進課：山上主任、西澤会計年度任用職員
議題	(1) 計画の中間案について (2) その他について	
公開・非公開の別	公開	非公開の理由：－
傍聴人の数	0名	
会議資料	資料 木津川市環境審議会委員名簿 資料1 第2次木津川市環境基本計画(中間案) 資料2 計画(素案)にかかるとご意見及び市の対応について 資料3 重点施策及び管理指標一覧表 資料4 策定スケジュール	
審議経過	1. 開 会 2. 議 事 ◎橋本会長から、名簿順により会議記録署名委員として木原委員が指名された。 (1) 計画の中間案について ◎事務局から計画(素案)からの修正点等について説明を受け、審議を行った。 資料1 第2次木津川市環境基本計画(中間案) 資料2 計画(素案)にかかるとご意見及び市の対応について ○管理指標に追加で、私有林人工林の面積拡大を目指すことを挙げられているが、人工林の面積を拡大するためには、天然林を伐採して人工	

◎：議事・進行
○：質問・意見
⇒：説明・回答

審議経過

- ◎：議事・進行
- ：質問・意見
- ⇒：説明・回答

林を植樹しなければならないので、管理指標としてふさわしくないのではないかと。他に管理指標として挙げるなら、森林整備率はどうか。森林吸収量は森林整備をどれだけ行ったかで算定しており、整備できた率はいわゆるFM（フォレストマネジメント）率とあって、現在50%くらいと思われるが、京都府でも数値を把握しているのでは。

⇒当市においては森林整備がなかなか進んでいないのが現状ですが、放置竹林や森林の荒廃により災害時の被害が拡大につながることから、担当課でも重要な課題であると認識をしており、森林整備に関する計画づくりを進めていく旨、お聞きしております。この管理指標に森林整備率を挙げるのが適切かどうかも含めて検討させていただきます。

○本計画のP10のコラム2-②について、コラムのタイトルが「木津川の生き物と堤防に残る貴重植物」とあるので、植物の写真を載せたらどうか。また写真にある「新ギギ」を調べてみたところ見当たらなかったが、希少なもののなのか。また生物学的に認められたものなのか。

⇒「新ギギ」の詳細については今お答えができませんが、また確認させていただき、必要に応じて「新ギギ」の写真と差し替えるなど対応をさせていただきます。

また、貴重植物の所在については「堤防に残る」という表現にとどめており、写真も掲載しておりません。これは、他の自治体でこうした貴重植物を採取されてしまうケースがあり、環境破壊につながる恐れがあるため、場所を特定しないように配慮したものです。

○P11の「⑤電気・都市ガスの使用量及び再生可能エネルギー（太陽光発電）等の導入状況」のところで、電気の単位が「千 kWh」と「MWh」の表記が混在しているので、どちらかに統一するべき。

○表や図表のタイトルの表記のしかたについて、論文では表のタイトルは表の上、図表のタイトルは図表の下に表記するルールがあるため、市の他の計画を確認してほしい。

また、本計画では環境・社会・経済の課題を総合的にみていこうという姿勢が前面に出されており、好印象をもっている。気候変動への対応については実行計画区域施策編のほうで具体化されるとのことなので、2050年CO₂ゼロの目標を達成できるような施策に取り組んでいただけるよう期待している。

○資料3は分かりやすい一覧にまとめられている。他課の具体的な施策

審議経過

が評価にどうつながるかを見えやすいように示していただけたらよい。

○本計画についてうまく整理されていると思う。しかしP9の「③河川の水質」のところで赤田川についての記述があるが、内容があまりはっきりしていないのではないか。

⇒赤田川の水質については合併前からの大きな課題となっており、京都府にも協力いただきながら、水質改善対策を講じているところでございます。赤田川は上流にいくほど水質が悪化している状態ですが、上流は奈良市域になりますので、本市から奈良県及び奈良市に対し、引き続きモニタリングや原因追及をしていただくよう要望をしております。

本市におきましても定期的に水質調査のモニタリングを行っておりますが、現段階では原因が特定できておりません。本計画で原因について憶測で記述することはできませんので、ご理解いただきますようお願いいたします。

農業用に赤田川の水を使っておられる方もいらっしゃいますが、今のところ農業被害は起こっておりません。また水質のモニタリングするなかで、一定の効果も見られているところもありますので、今後も引き続き奈良県及び奈良市と十分な情報共有を図り、対策を講じてまいります。

○資料3をみると、管理指標が定められている施策とそうでない施策があり、例えば重点施策2の主な取り組み「新型コロナウイルス感染症等の対応」には管理指標が定められていないが、どのように進捗具体を判断するのか。

⇒新型コロナウイルス感染症等の対応としては、環境分野においては廃棄物処理を適正に継続していけるよう対策を行うことが必要であり、重点施策2の「環境負荷が少なく資源が循環する環境都市づくり」で取り組んでいくべき施策であると考えております。

重点施策と管理指標は1対1で結びついているものではなく、管理指標はそれぞれの重点施策がうまく進んでいるかどうかを点検するための1つの目安であると認識しております。

各個別計画に基づく具体の施策の進捗については、個別計画で定められた目標値等で確認していくものですが、そうしたことも踏まえて、重点施策が全体的にどう進んでいるか、毎年度の点検・評価で確認してまいります。

○管理指標において、ごみ袋有料化財源活用事業における数値目標をも

審議経過

◎：議事・進行

○：質問・意見

⇒：説明・回答

とにしているものについては、その旨記載したらどうか。

また本計画P4の図表1-2に「生物多様性木津川市地域連携保全計画」と記載があるが、これは環境基本計画とは並列するような位置づけなのか。

⇒環境基本計画は全体を通してさまざまな計画に関わっております。

「生物多様性木津川市地域連携保全計画」は鹿背山などの木津北地区における里山保全のために策定されたもので、環境基本計画に関連する主な個別計画の一つという位置づけです。

○本計画P36の「④表彰制度」で市独自の大賞を創設されるとあり、小学生から大人まで主体的に楽しんで取り組めるようなものになればよいと思う。

○本計画P10コラム2-②について、スッポンの写真が掲載されているが本文にはスッポンについての記述がないので、本文と写真を対応させたほうがよい。

○本計画P22に2050年までにゼロ・カーボンシティの実現を目指す旨の記述があるが、首長によるゼロ・カーボンシティ宣言を行う予定はあるのか。他市町村でも宣言が相次ぐ見込みである上に、宣言を行った市町村を対象とした補助金もあるので検討してはどうか。
また、脱炭素社会はこのままでは実現するのが難しいが、2050年の市のあるべき姿をだれもがイメージできる形で示すことと、環境部局だけでなく他部局とも連携して全庁的に取り組んでいくことが重要である。

⇒ゼロ・カーボンシティ宣言については、本計画策定後、計画内でお示した方向性に基づいてゼロ・カーボンシティ宣言に向けて進めてまいります。また、脱炭素社会のイメージや全庁的な取り組みについては、ご意見のとおり今後対応してまいります。

○資料3の一覧表は本計画には掲載しないのか。

⇒本計画の最終ページに掲載させていただきます。

(2) その他について

◎事務局から次の事項について説明を受けた。

(次回審議会の日程について)

2月10日に政策会議に諮り、3月にパブリックコメントを実施する

審 議 経 過	<p>予定です。パブリックコメントで寄せられたご意見等を参考に最終案をおまとめし、4月開催予定の次回審議会で答申案をとりまとめた ただきたく存じます。</p> <p>4. 閉 会</p>
そ の 他	特になし。